

## 住民と行政との情報交換に 飛躍的な進歩をもたらします

# ネットワーク住宅 調査事業がスタート

協力をいただき、市内の情報ネットワークを築く実験を始めました。モニターとなっていただくかたのご家庭にはコンピュータの端末機を配置し、現在、端末機の操作に慣れていただくための練習を行っています。今後、インターネットへの接続、電子メールや音声メールの送・受信、また、カメラで撮影した画像の送信など、順次実験を進めていく計画です。

モニターの中には、いわゆるマルチメディアになじみが少ないと思われる高齢者の方々も少なくありません。このことから、事業が進むに連れ、他に例を見ない画期的な実験結果を得られるのではないかと期待されます。

### 市民と行政を結び 時差のない双方向の 情報交換を実現

また、モニターの中心となっているのが行政協力員であるため、今回の実験がスムーズに行われれば、市の行政推進にも大きなプラス要素がもたらされることとなります。

この実験のため、行政協力員を中心とした計二百人の皆さんのご

### マルチメディアを だれもが 活用できるように

これまでも、行政協力員の皆さんには、市の広報紙という形で行政情報を各家庭に届ける役割を担っていただいていたのですが、マルチメディアを活用することにより、近い将来には市が各施策をホームページ上に提示し、しかもそれに対する市民の皆さんの反応をインターネットを通じて得ることが可能になるのです。

行政からの一方的な「お知らせ」ではなく、双方向の情報交換が即座に行えるようになるわけで、今後、地域と市役所をじかに結ぶ行政情報ネットワークを構築するにあたり、大きな一歩を踏み出すこととなります。

### 4月開設予定 大館市のホームページ

この実験と並行して、大館市のホームページを四月中に開設する予定です。このホームページでは、大館市の情報を国内はもとより、世界へ向けて発信することになります。市民の皆さんもぜひご覧になって、多くのご意見をお寄せください。

## 市長リポート

No. 130



都市の基盤づくりは  
住宅地の整備から

いい都市とは、いい住宅地から出来ているものです。では、いい住宅地とは何かといいますと、例えば上・下水道が整備されていて、宅地と接する四メートル幅の道路や、六メートル幅の基幹道路がきちんと確保されていること。公園が整備されていることも大切です。また、盆地という地形に立地している大館市においては、上・下水道のみならず、雨水を排水するための側溝もしっかりしたものでなければなりません。さらに最近ですと高度情報化の時代ですから、さまざまな映像や音声などの情報が各家庭で享受できる環境が整えられていることも重要です。これらの条件を備えているのがいい住宅地であり、その集合体が「いい都市」ということになるわけです。

この「いい都市」「いい住宅地」を築き上げていくことが我々市民の目標なのですが、個々の住宅単体からの取り組みでは解決できない問題も必ず出てきます。公共の財産である道路もその一つ。十分な幅が確保されていないために、冬の除雪が大変であるとか、いざというときに緊急車両が入って来れないだとか。やはり、住宅地が形成される段階できちんとした整備がされていないと、このような問題は避けられません。まず大切なのは、住宅地を造成したり住宅を建て替えたりする場合には、都市計画法や建築基準法に合致した形にすることです。その上で、個々で解決できない問題は官民が手を携えて解決していくこととなります。

これは我々一世代だけの努力でなく、未来へ残す財産として継続していくべきものです。全市民の協力で、いい住宅、いい住宅地、いい都市を築こうではありませんか。

小畑 元